

巻頭言

「ラグビーワールドカップ 2015」

理事長 新谷 友良

久しぶりにテレビのスポーツ中継で興奮しました。「ラグビーワールドカップ 2015」、優勝したのは結局ニュージーランドでした。

勤めていた会社のチームが強かったときは結構社会人の試合を観に行きましたが、最近では正月の大学ラグビーぐらいで、日本のナショナルチームについては正直関心がありませんでした。それがこの1年ぐらいエディー・ジョーンズ ヘッドコーチの名前を頻繁に耳にするようになり、続いてナショナルチームの選手の体型の変化に目をみはりました。胸が厚く、肩に肉が付き、腿の太さも数年前の日本人選手の体ではありません。

そしてもっとびっくりしたのは、日本代表に大変多くの外国人選手がいることです。野球の侍ジャパンは全員日本人ですし、サッカー日本代表にもラモス瑠偉や鬨莉王たちがいましたが、いずれも日本国籍を取っています。インターネットで調べましたら、ラグビーの場合、国の代表は①その国・地域で出生したこと②両親および祖父母のうち少なくとも1人が、その国・地域で出生したこと③その国・地域に36ヶ月以上継続して居住しつづけていることの三つの条件のどれかを満たしていれば良いとのこと。そして、今回の日本代表31人中10人は外国人選手でした。

ヘッドコーチのエディー・ジョーンズはオーストラリア人の父と日本人の母の間に生まれています。主将のリーチ・マイケルはニュージーランド出身、東海大学OBで日本国籍を取得しています。また、名前だけでは日本人と間違ってしまうですが、松島幸太郎はジンバブエ人の父と日本人の母の間の子供です。

このように初めて知ったことの多かった今回のワールドカップですが、内容は文句なしに今年の「ベスト オブ スポーツ」、外国人の多さからくる違和感はスポーツの持つ爽快さの前に完全に解消してしまいました。往年の名プロゴルファー倉本 昌弘は日経の夕刊に「賞金をかけて戦うのがプロだ。国の名誉のためならアマチュアが戦えばいいと思う」と書いていますが、体力・知力をかけた一流プロの国対抗戦はエキサイティングでした。次回のラグビーワールドカップは2019年日本での開催、日本のナショナルチームの活躍と同時に何人の外国人が代表になっているか興味津々です。